

**FUJIFILM**

## **2011年度 決算説明会**

**富士フイルムホールディングス株式会社**

**2012年4月27日**

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス 2011年度決算についてご説明させていただきます。

## 2011年度決算 概況

- 為替の円高影響
- 東日本大震災の影響
- タイの洪水影響による販売機会減少・原価アップ
- 銀やアルミなどの原材料価格の高騰
- 欧州の景気悪化による需要減
- 液晶テレビ市場の需要落ち込みによるフラットパネルディスプレイ材料の需要減

**様々な外部環境の影響を受け、減収減益。**

2

2011年度は、為替の円高、東日本大震災、タイの洪水、銀やアルミなどの原材料価格の高騰など外部環境の影響を大きく受けました。

さらに欧州の景気悪化に伴い需要が減少、フラットパネルディスプレイ材料事業においても、日本のエコポイント制度や中国の家電普及政策などにより需要が旺盛だった前年と比べ、液晶テレビ市場の需要が落ち込んだことによる厳しい事業環境となりました。

このような様々な外部環境の影響を受け、2011年度決算は全体で減収減益となりました。

## 2011年度 連結業績 (2011年4月~2012年3月)

(単位:億円)

	第4四半期		通期		対前年度(通期)
	2010年度	2011年度	2010年度	2011年度	
売上高	5,654 100.0%	5,768 100.0%	22,171 100.0%	21,953 100.0%	-218 -1.0%
営業利益	139 2.5%	273 4.7%	1,364 6.2%	1,129 5.1%	-235 -17.2%
税金等調整前 当期純利益	80 1.4%	315 5.5%	1,171 5.3%	892 4.1%	-279 -23.8%
当社株主帰属 当期純利益	55 1.0%	201 3.5%	639 2.9%	438 2.0%	-201 -31.5%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	11.31円	41.65円	131.30円	90.84円	-40.46円
為替 :米ドル	82円	79円	86円	79円	-7円
:ユーロ	113円	104円	113円	109円	-4円

2011年度の連結売上高は、前年比1%減の2兆1,953億円となりました。  
為替の円高影響や、震災やタイの洪水影響などにより、  
前年比で218億円の減少となりました。  
円高影響515億円を除くと、前年比1.3%増となります。

営業利益は、  
為替の円高、原材料価格高騰、震災やタイの洪水影響を受け、  
前年比17.2%減の1,129億円となりました。

税金等調整前当期純利益は、  
194億円の投資有価証券評価損を計上したことなどにより、  
前年比23.8%減の892億円、

当社株主帰属当期純利益は、  
前年比31.5%減の438億円となりました。

## 営業利益 増減要因

(単位:億円)

2010年度	2011年度			
	為替 影響	原材料 価格高騰	販売増減 など	実績
1,364	-99	-200	64	1,129

	2010年度(平均)	2011年度(平均)	対前年度	
<b>為替</b>				
米ドル	86円	79円	-7円	(-8.1%)
ユーロ	113円	109円	-4円	(-3.5%)
<b>原材料</b>				
銀	59,000円/Kg	90,000円/Kg	+31,000円	(+52.5%)

4

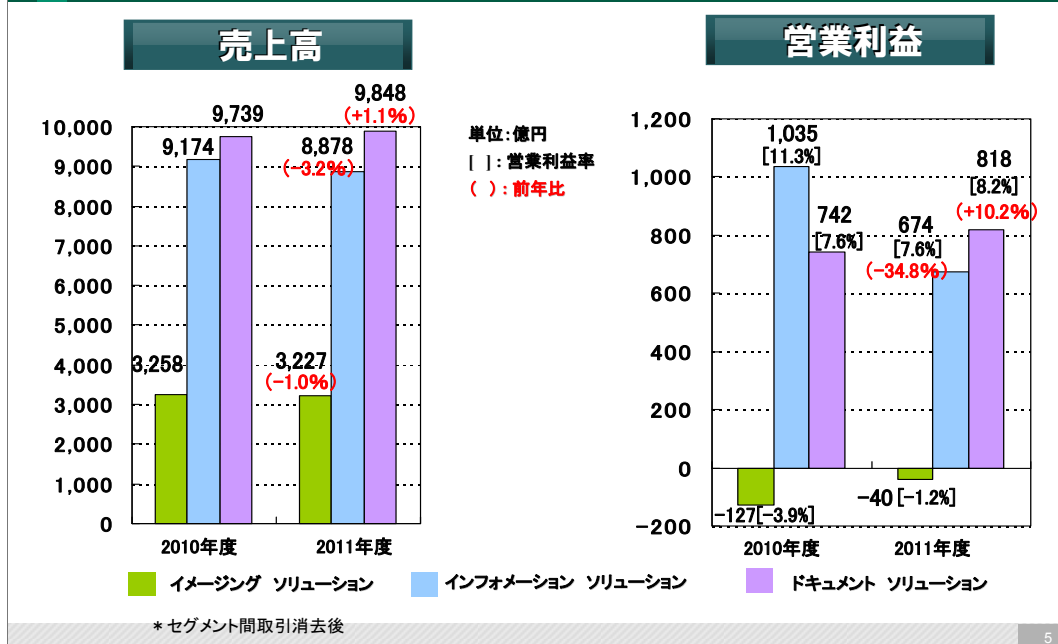
2011年度に対する営業利益の減益要因についてご説明します。

為替の円高により99億円のマイナス影響がありました。

前年と比較して、通期平均でドル円で7円、ユーロ円で4円の円高となったことによる影響です。その他、アジア地域などのローカル通貨でも円高影響を受けました。

また、銀やアルミなど主要原材料価格の高騰によるマイナス影響が200億円ありました。銀価格は前年比で50%強も高騰しました。

## 通期 セグメント別:連結売上高/営業利益



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年比1%減の3,227億円、為替影響を除くと前年比3.3%増、営業利益は40億円の赤字となりましたが損益は大きく改善しました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年比3.2%減の8,878億円、為替影響を除くと前年比0.7%減にとどまり、営業利益は前年比34.8%減の674億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年比1.1%増の9,848億円、為替影響を除くと2.6%増、営業利益は前年比10.2%増の818億円となりました。

## セグメント別 概況

### ■ イメージング ソリューション

- ・フォトイメージングのカラーペーパーが販売好調
- ・デジタルカメラの販売がハイエンドを中心に好調で売上増

FUJIFILM X-Pro1

FUJIFILM X100

FUJIFILM X10

FUJIFILM X-S1



原材料価格の高騰や円高・タイの洪水影響など  
 厳しい事業環境だったものの、  
 部門全体で損益は改善

6

引き続き、セグメント別のポイントをご説明しますが、サブセグメントの詳細については、19ページ以降の参考情報に記載しておりますのでご確認ください。

それでは、イメージングソリューション部門の状況です。

フォトイメージングでは、フォトブックなどの付加価値プリントの拡販により、カラーペーパーの販売が好調でした。

またデジタルカメラも、独自技術を活かした特徴あるハイエンドモデルを中心として販売が好調に推移、平均販売単価が上昇し、売上も増加しました。

一眼レフを凌駕する高画質を実現するカメラとして高い評価を受けた「FUJIFILM X100」に続き、「FUJIFILM X10」、「FUJIFILM X-S1」を発売、「Xシリーズ」としてラインアップ化しました。

そして、2012年2月にはXシリーズの最高峰として、レンズ交換式プレミアムカメラ「X-Pro1」および交換レンズ「フジノンXFレンズ」を発売し、プロカメラマンからも高評価を受けています。

イメージングソリューション部門全体では、為替の影響が大きく、減収となりました。一方、損益につきましては、原材料価格の高騰やタイの洪水影響を受けるなど厳しい環境だったものの、デジタルカメラの損益改善などにより、部門全体でも改善しました。

## セグメント別 概況

### ■ インフォメーション ソリューション

- フラットパネルディスプレイ材料事業は、液晶テレビの需要減等により売上減
- メディカルシステム・ライフサイエンス分野では、医用画像情報ネットワークシステムや小型FCR、内視鏡の販売が好調に推移。  
化粧品も「アスタリフト」ベースメイクシリーズを発売し売上増加
- 記録メディア、電子材料の売上も好調



**外部環境の影響による主要事業の不振で  
部門全体で減収減益**

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

フラットパネルディスプレイ材料は、大型液晶テレビ向け「VA用フィルム」の生産ラインを新たに稼働させ、VA用フィルムの販売は好調に推移しましたが、液晶テレビの需要が非常に旺盛だった前期と比べ、「フジタック」や「WVフィルム」などの売上が減少しました。

メディカルシステム・ライフサイエンス分野では、医用画像情報ネットワークシステムや、小型FCR、内視鏡の販売が好調に推移しました。

また化粧品では「アスタリフト」のベースメイクシリーズを発売するなどにより、売上が増加。

その他、データバックアップ用テープの販売が好調だった記録メディア事業や、ArF液浸レジストなどの販売が好調だった電子材料事業で売上が増加しました。

インフォメーションソリューション部門は、為替の円高や欧州の景気悪化など外部環境の影響を受けて、フラットパネルディスプレイ材料やグラフィックシステムなどの売上が減少し、全体としては減収減益となりました。

## セグメント別 概況

### ■ ドキュメント ソリューション

- 為替の円高、欧州の景気悪化、タイの洪水影響などがあったものの、アジア・オセアニア地域で売上が好調だったことなどにより、売上増加
- 国内のコピー枚数は、通期で増加
- グローバルサービスは、国内及びアジア・オセアニアで売上が好調



様々な外部環境のマイナス影響を受けたものの  
増収増益

8

ドキュメントソリューション部門については、  
為替の円高や欧州の景気悪化、タイの洪水影響などがあったものの、  
アジア・オセアニア地域で売上が好調だったことなどにより、  
売上が増加しました。

また国内のコピー枚数は、一時的に震災による需要減などの影響を受けたものの、  
通期では増加しました。

またグローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニアで売上が好調でした。

ドキュメントソリューション部門につきましては、増収増益となりました。



## 連結貸借対照表

(単位:億円)

	10年度末	11年度末	対前年度		10年度末	11年度末	対前年度
現金 及び現金同等物	3,131	2,351	-780	長短社債 及び借入金	1,896	1,989	+93
受取債権	5,022	5,565	+543	支払債務	2,614	2,584	-30
棚卸資産	3,422	3,780	+358	その他流動 固定負債	4,069	4,259	+190
有価証券 その他流動資産	1,533	1,524	-9	負債計	8,579	8,832	+253
流動資産計	13,108	13,220	+112	株主資本計	17,225	17,218	-7
有形固定資産	5,641	5,539	-102	非支配持分	1,284	1,347	+63
営業権	3,444	3,935	+491	純資産計	18,509	18,565	+56
投資有価証券 その他資産	4,895	4,703	-192	負債・純資産 合計	27,088	27,397	+309
固定資産計	13,980	14,177	+197				
資産合計	27,088	27,397	+309				

(単位:円)

期末日為替レート	10年度末	11年度末
米ドル	83	82
ユーロ	118	110

続いて、バランスシートについてご説明します。

2011年度末の資産は、受取債権、棚卸資産や営業権が増加し、現金および現金同等物が減少したことで309億円増の2兆7,397億円となりました。

負債は、借入金及びその他固定負債などが増加したことにより、253億円増の8,832億円となりました。

株主資本は、ほぼ横ばいとなりました。

流動比率は前年度末に比べ32.6ポイント減の190.9%、負債比率は1.5ポイント増の51.3%、株主資本比率は0.8ポイント減の62.8%で、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しています。

## キャッシュフロー

(単位:億円)

	2010年度	2011年度
当期純利益	728	570
減価償却費	1,571	1,478
受取債権の増(-)減(+)	-141	-503
棚卸資産の増(-)減(+)	-382	-245
営業債務の増(+)-減(-)	12	-54
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-154	-223
その他	360	328
<b>営業活動によるCF</b>	<b>1,994</b>	<b>1,351</b>
設備投資	-961	-1,008
ソフトウェアの購入	-181	-210
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	293	254
その他	-459	-895
<b>投資活動によるCF</b>	<b>-1,308</b>	<b>-1,859</b>
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>686</b>	<b>-508</b>
<b>営業活動によるCF+設備投資</b>	<b>1,033</b>	<b>343</b>

10

続いて、キャッシュフローについてご説明します。

営業活動で1,351億円のキャッシュが増加しましたが、投資活動ではフラットパネルディスプレイ材料事業での生産能力増強などによる設備投資や、米国ソノサイト社の事業買収に伴う支出などにより、1,859億円の支出となり、フリーキャッシュフローは508億円の支出となりました。

2011年度 決算説明会

## 2012年度 連結業績予想

11

引き続きまして、2012年度の業績予想についてご説明します。

**2012年度 経済環境の見通しと業績予想** (2012年4月27日時点)

- 欧州の景気低迷は続き、世界経済の先行きは不透明感が増す一方、中国その他新興国では堅調な成長が続く見込み
- ドル、ユーロ、およびその他ローカル通貨の円高傾向は継続
- 銀価格などの原材料価格も、高水準で引き続き推移



**厳しい経済環境は続くが、既存事業の強化を図り  
売上高 2兆3,700億円、営業利益1,400億円  
の増収増益を目指しつつ、  
中期経営計画「VISION80」で策定した戦略に基づき、  
中長期的に成長をはかる**

12

まず、事業をとりまく環境についてですが、  
2011年度と同様に、欧州の景気低迷や、各通貨の円高傾向、  
また原材料価格の高い水準などが続き、厳しい状況であると見込んでおります。

このような環境ではありますが、既存事業の強化を図りながら、  
中期経営計画「VISION80」で策定した中長期的な成長戦略に基づいて  
各施策を遂行し、  
2012年度で売上高2兆3,700億円、営業利益1,400億円の増収増益を目指します。

VISION80では、「高機能材料」「ヘルスケア」「ドキュメント」の3事業分野を  
成長の柱としており、  
この3事業分野における2012年度の主な施策についてご説明します。

**2012年度 VISION80に基づく施策** (2012年4月27日時点)**高機能材料**

- フラットパネルディスプレイ材料分野で、WVなどの得意分野での売上確保と、TACの薄手化対応やVA拡販によるシェア拡大
- 独自の技術を活かした新製品の市場投入・拡販  
タッチパネル用のセンサーフィルム  
太陽電池向けのバックシート用PETフィルム
- 販売好調の電子材料をより一層拡販  
ArF最先端フォトレジスト  
CMPスラリー

13

まず高機能材料では、

フラットパネルディスプレイ材料分野で、WVフィルムなどの得意分野での売上確保と、TACの薄手化対応やVA用フィルム拡販によるシェア拡大を図ります。

また当社グループの独自の技術を活かした新製品の拡販、具体的にはサンプル評価中でありました「タッチパネル用のセンサーフィルム」や「太陽電池向けのバックシート用PETフィルム」などの市場本格投入による収益への寄与を図ります。

さらに、販売好調の電子材料「ArF最先端フォトレジスト」や「CMPスラリー」なども一層拡販します。

**2012年度 VISION80に基づく施策** (2012年4月27日時点)**ヘルスケア**

- 「**診断**」領域  
DRシステムの拡販とネットワークビジネスの拡大  
医療機器の中国への生産移管推進などによるコスト競争力の強化  
ソノサイト社における携帯型超音波診断装置の販売拡大
- 「**予防**」領域  
化粧品などのラインアップ拡充と、中国や東南アジアに加え、欧州など海外展開の加速
- 「**治療**」領域  
既存薬の売上増加  
承認申請中の「T-705」「T-614」の上市に期待

14

ヘルスケア分野では、

「診断」領域で、  
FCRでの高いシェアを基盤に、  
DRパネルのレトロフィット対応や新製品DRパネルの拡販、  
またネットワークビジネスの拡大を狙うとともに、  
医療機器の中国への生産移管を推進しコスト競争力を強化します。

また買収したソノサイト社における超音波診断装置の販売を拡大し、  
10%以上の売上の伸びの継続を目指します。

「予防」領域では、  
化粧品などのラインナップの拡充や、海外での拡販を図ります。  
海外では中国や東南アジアに加えて、3月に販売をスタートしたフランスや、  
さらにイギリス・イタリア・スペイン・ドイツ・ロシアへの参入を進めます。

「治療」領域では、  
富山化学の製品を中心とした既存薬の売上増に加え、  
承認申請中の「T-705」「T-614」の上市を期待しています。

また中長期的な戦略として、特徴ある医薬品の開発を継続して行います。

**2012年度 VISION80に基づく施策** (2012年4月27日時点)**ドキュメント**

**2013年度の営業利益率10%以上の達成を目指し取り組む**

- ・ **成長領域であるサービス事業の強化、及びアジア・中国での拡販**
- ・ **競争力の高い商品の拡販によるシェア拡大**  
ApeosPort-IV / DocuCentre-IV シリーズなど
- ・ **継続的な企業体質の強化による収益力の向上**

15

最後にドキュメント分野では、

来年2013年度の営業利益率10%以上の達成を確実なものとするべく、取り組めます。

ハード機器の販売に留まらず、成長領域であるプロダクションサービスやグローバルサービス等のサービス事業をさらに強化するとともに、アジア・中国で全事業領域において拡販を推進することにより、高い成長を目指します。

また、販売が好調な、フルカラーデジタル複合機「ApeosPort-IV（アペオス ポート フォー）」や「DocuCentre-IV（ドキュセンター フォー）」シリーズなどに代表される競争力の高い商品やソリューションの拡販により、シェアの拡大を狙います。

企業体質の強化においては、原価改善、及び経費効率や生産性の向上を継続し、収益性の改善を進めます。

## 2012年度 連結業績予想 (2012年4月27日時点)

(単位:億円)

	2011年度	2012年度(予想)	対前年度
売上高	21,953 100.0%	23,700 100.0%	1,747 +8.0%
営業利益	1,129 5.1%	1,400 5.9%	271 +24.0%
税金等調整前 当期純利益	892 4.1%	1,350 5.7%	458 +51.4%
当社株主帰属 当期純利益	438 2.0%	650 2.7%	212 +48.5%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	90.84円	134.94円	+44.10円
為替 :米ドル	79円	78円	-1円
:ユーロ	109円	103円	-6円

\* 2012年度 営業利益 為替感応度 米ドル:14億円、ユーロ9億円

16

2012年度の連結業績は、お伝えしたとおり、  
売上高2兆3,700億円、営業利益1,400億円を予想しております。

これは2011年度と比べ、売上高は8%、営業利益は24%の増加となります。

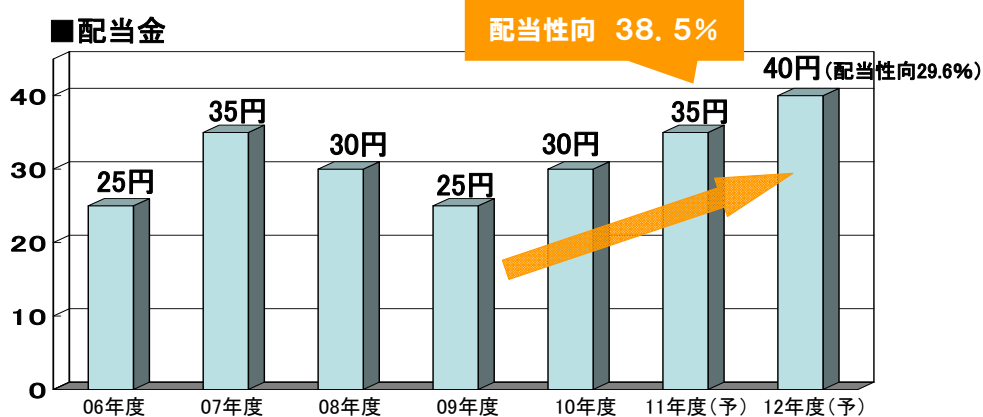
また税金等調整前当期純利益は1,350億円、当社株主帰属当期純利益は650億円、  
1株当たり当社株主帰属当期純利益は134.94円となっています。



## 株主還元

## 株主還元方針

- ・ 今後は、配当性向を25%以上に設定
- ・ 自己株式取得は、キャッシュフローを勘案し、機動的に実施



17

最後に、株主還元の状況についてご説明します。

当社の株主還元方針は、配当性向を25%以上に設定し、  
配当を重視した還元策を基本としております。

自己株式取得は、キャッシュフローを勘案し機動的に検討します。

2011年度の当期純利益は、前年度を大きく下回りましたが、  
株主還元重視の考えから、1株当たり5円増配の35円を予定しており、  
配当性向は目標値の25%を大幅に上回る、38.5%となります。

2012年度の配当金は、1株当たり5円増配の40円を予定しております。

# FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、  
最高品質の商品やサービスを提供する事により、  
社会の文化・科学・技術・産業の発展、  
健康増進、環境保持に貢献し、  
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2011年度決算および2012年度の見通しについて、ご説明いたしました。  
ご静聴いただき、ありがとうございました。

2011年度 決算説明会

## 参考資料

<当スライドは配付資料です>

## 2011年度 セグメント別 連結業績

## ■ イメージング ソリューション

単位:億円

売上高	2010年度		2011年度		
	第4四半期	通期	第4四半期	通期	対前年度(通期)
フォトイメージング	456	2,115	463	2,020	-95 (-4.5%)
電子映像	229	1,143	276	1,207	64 (+5.6%)
合計	685	3,258	739	3,227	-31 (-1.0%)

ご参考: 為替影響を除いた部門全体売上高: 対前年度+3.3%

単位:億円

営業利益 [営業利益率]	2010年度		2011年度		
	第4四半期	通期	第4四半期	通期	対前年度(通期)
イメージング ソリューション	-164 [-23.8%]	-127 [-3.9%]	-2 [-0.2%]	-40 [-1.2%]	+87

\*セグメント間取引消去後

20

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 2011年度 セグメント別 連結業績

## ■ イメージング ソリューション

## フォトイメージング

- カラーペーパーのシェア拡大やフォトブック等付加価値プリントの拡販により、売上が増加。
- 原材料(銀)価格の高騰により、利益圧迫。

## 電子映像

- 円高やタイ洪水の影響を受けたが、独自技術を活かした特徴あるハイエンドモデルを中心として販売が好調に推移し、平均販売単価が上昇、売上も増加。
- 総需が大幅に落ち込む中、当社の販売台数は前年比4%増の約1,170万台。
- 2011年3月に発売した高級コンパクトデジタルカメラ「FUJIFILM X100」を皮切りに、10月に「FUJIFILM X10」、12月に「FUJIFILM X-S1」と、プレミアムカメラ「Xシリーズ」を順次発売し、販売が好調に推移。
- 2012年2月には、最高峰の画質と質感を備えるレンズ交換式の「FUJIFILM X-Pro1」及び交換レンズ「フジノンXFレンズ」3種を発売。

< 当スライドは配付資料です >

## 2011年度 セグメント別 連結業績

## ■ インフォメーション ソリューション

単位: 億円

売上高	2010年度		2011年度		対前年度(通期)	
	第4四半期	通期	第4四半期	通期		
メディカルシステム ライフサイエンス	847	2,677	935	2,920	+243	(+9.1%)
グラフィックシステム	608	2,383	584	2,319	-64	(-2.7%)
フラットパネル ディスプレイ	502	2,185	433	1,825	-360	(-16.5%)
記録メディア	123	441	130	483	+42	(+9.3%)
産業機材/電子材料他	226	832	208	808	-24	(-2.8%)
光学デバイス	150	656	123	523	-133	(-20.3%)
合計	2,456	9,174	2,413	8,878	-296	(-3.2%)

ご参考: 為替影響を除いた部門全体売上高: 対前年度-0.7%

単位: 億円

営業利益 [営業利益率]	2010年度		2011年度		対前年度(通期)	
	第4四半期	通期	第4四半期	通期		
インフォメーション ソリューション	196 [8.0%]	1,035 [11.3%]	176 [7.3%]	674 [7.6%]	-361	(-34.8%)

\*セグメント間取引消去後

22

&lt; 当スライドは配付資料です &gt;

## 2011年度 セグメント別 連結業績

### ■ インフォメーション ソリューション

#### メディカルシステム・ライフサイエンス

##### 【メディカルシステム】

- ネットワークシステム分野の売上が増加。医療用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」は国内約1,700の医療施設に導入されトップシェアを維持。
- 小型FCR「FCR PRIMA T」の販売が好調。
- 経鼻内視鏡や内視鏡情報管理システムの販売が好調。

##### 【医薬品】

- 医薬品は、「ゾシン」「オゼックス細粒」「ジェニナック」等の販売が好調に推移し、富士化学の売上が大幅に増加。
- 2011年3月に買収したバイオ医薬品受託製造2社の売上が好調に推移。
- 抗インフルエンザウイルス薬「T-705」国内製造販売承認申請中。

##### 【ライフサイエンス】

- 2011年9月に機能性化粧品「アスタリフト」のベースメイクシリーズを発売。またサプリメントの販促活動の積極的な展開により売上が増加。
- 海外では中国や東南アジアに加え、フランスでも販売開始。

23

< 当スライドは配付資料です >

## 2011年度 セグメント別 連結業績

## フラットパネルディスプレイ材料

- 液晶テレビの需要が旺盛であった前年比で売上は減少。
- 大型液晶テレビ向け「VA用フィルム」の需要拡大に対応するため、超広幅フィルムの生産ラインを新たに稼働。VA用フィルムの販売は好調。

## グラフィックシステム

- 円高や震災に伴う需要減により売上減。
- 成長分野のデジタルプリンティングの分野でラインアップを充実。

## 記録メディア

- BaFe磁性体(バリウムフェライト)を使用したデータバックアップ用テープなどの販売が好調で売上が増加。

## 産業機材/電子材料 他

- 工業用X線フィルムの販売が好調に推移。
- ArF液浸レジストなど販売が好調で売上が増加。

## 光学デバイス

- テレビカメラ用レンズは販売好調だったが、携帯電話用レンズの販売が減少し、売上減。

< 当スライドは配付資料です >



## 2011年度 セグメント別 連結業績

## ■ ドキュメント ソリューション

単位:億円

売上高	2010年度		2011年度		対前年度(通期)
	第4四半期	通期	第4四半期	通期	
オフィスプロダクト	1,299	5,090	1,317	5,109	+19 (+0.4%)
オフィスプリンター	417	1,663	413	1,590	-73 (-4.4%)
プロダクション サービス	336	1,297	351	1,294	-3 (-0.3%)
グローバルサービス	244	881	297	996	+115 (+13.1%)
その他	217	808	238	859	+51 (+6.3%)
合計	2,513	9,739	2,616	9,848	+109 (+1.1%)

ご参考: 為替影響を除いた部門全体売上高: 対前年度+2.6%

単位:億円

営業利益 [営業利益率]	2010年度		2011年度		対前年度(通期)
	第4四半期	通期	第4四半期	通期	
ドキュメント ソリューション	186 [7.4%]	742 [7.6%]	205 [7.7%]	818 [8.2%]	+76 (+10.2%)

\*セグメント間取引消去後

25

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 2011年度 セグメント別 連結業績

## ■ ドキュメント ソリューション

## オフィスプロダクト

- 国内は、カラー・モノクロ機ともに販売台数が増加し、コピー枚数も増加。
- アジア・オセアニア地域での販売台数、及び、米国ゼロック社向け出荷台数において、カラー機・モノクロ機ともに増加。

## オフィスプリンター

- 国内は、新商品の販売好調により、カラー機・モノクロ機ともに販売台数が大幅に増加。
- 米国ゼロック社向けは、カラー機・モノクロ機ともに出荷台数が増加。

## プロダクションサービス

- 国内は、ライトプロダクション・カラーシステムやエントリープロダクション・カラーシステムの販売好調により、販売台数が増加。
- アジア・オセアニア地域は、エントリープロダクション・カラーシステムの販売好調により、販売台数が増加。

## グローバルサービス

- 国内、アジア・オセアニア地域、ともに売上が増加。企業全体の出力環境を包括的にマネジメントする「エンタープライズ・プリント・サービス」の提供を日本およびアジア・オセアニア地域で開始。

< 当スライドは配付資料です >

## 国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2010年度		2011年度		
	構成比(%)		構成比(%)		対前年度
日本	46.7%	10,348	46.2%	10,127	-221 (-2.1%)
米州	16.6%	3,682	16.7%	3,676	-6 (-0.2%)
欧州	11.7%	2,606	12.0%	2,627	+21 (+0.8%)
内、中国	7.8%	1,731	9.3%	2,052	+321 (+18.5%)
アジア他	25.0%	5,535	25.1%	5,523	-12 (-0.2%)
海外	53.3%	11,823	53.8%	11,826	+3 (+0.0%)
合計	100.0%	22,171	100.0%	21,953	-218 (-1.0%)

27

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 設備投資、減価償却費

(単位:億円)

	2009年度		2010年度		2011年度		2012年度
	4Q	年度	4Q	年度	4Q	年度	予想
イメージング	28	91	25	81	36	92	-
インフォメーション	82	285	207	618	153	598	-
ドキュメント	159	403	84	195	82	193	-
コーポレート	0	0	-12	5	6	26	-
設備投資 ※	269	779	304	899	277	909	1,100
イメージング	57	219	30	101	36	108	-
インフォメーション	253	991	220	774	212	763	-
ドキュメント	203	736	161	658	142	575	-
コーポレート	1	5	10	38	9	32	-
減価償却費	514	1,951	421	1,571	399	1,478	1,570
有形固定資産の 減価償却費 ※	371	1,351	296	1,066	271	966	1,100

※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

28

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 研究開発費、販売費および一般管理費

(単位:億円)

	2010年度		2011年度	
	4Q	年度	4Q	年度
イメージング	25	76	15	72
インフォメーション	164	697	199	769
ドキュメント	162	654	173	641
コーポレート	62	226	86	252
<b>研究開発費</b>	<b>413</b>	<b>1,653</b>	<b>473</b>	<b>1,734</b>
<売上高比>	7.3%	7.5%	8.2%	7.9%
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>1,453</b>	<b>5,706</b>	<b>1,545</b>	<b>5,814</b>
<売上高比>	25.7%	25.7%	26.8%	26.5%

29

<当スライドは配付資料です>

## 為替、為替感応度、人員

## 為替

(単位:円)

	2010年度					2011年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年度	1Q	2Q	3Q	4Q	年度
米ドル	92	86	83	87	86	82	78	77	79	79
ユーロ	117	111	112	113	113	117	110	104	104	109

\* 2012年度 営業利益 為替感応度 米ドル:14億円、ユーロ9億円

## 人員

(単位:人)

	2011.3末	2011.6末	2011.9末	2011.12末	2012.3末
連結	78,862	79,367	81,387	81,316	81,691

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 富山化学工業(株) 新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域*	開発段階					剤形
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	
T-705	抗ウイルス剤	日本	▶					経口
		米国	▶					
T-614	抗リウマチ剤	日本	▶					経口
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本	▶					注射**
		米国	▶					経口/注射
		欧州	▶					
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国	▶					経口
T-5224	抗リウマチ剤	日本	▶					経口
		海外	▶					
T-2307	抗真菌剤	米国	▶					注射
T-1106	抗ウイルス剤	日本	▶					経口

\* 海外については富士フィルムグループとして開発

\*\* 経口剤は「ジェニナック」として発売

T-705は、日本においてP IIIが終了し、2011年3月30日に製造販売承認申請済み。

<当スライドは配付資料です>

## トピックス

### 協和キリン富士フィルムバイオロジクス株式会社 設立

バイオ医薬分野の強化に向け、協和発酵キリン株式会社とバイオシミラーの合併会社、「協和キリン富士フィルムバイオロジクス株式会社」を2012年3月に設立。

### 超音波診断装置メーカーSonoSiteを完全子会社化

米国携帯型超音波診断装置メーカーSonoSiteを公開買付けにより買収し、2012年3月に完全子会社化。同時に、メディカルシステム事業部内に超音波グループを設立。

SonoSiteの得意とする「現場処置用の製品(POC)」のさらなる成長に加え、富士フィルムの高画質技術を搭載した「現場診断用の製品」を、SonoSiteの生産・販売基盤を活用して立ち上げ、超音波ビジネスを拡大する。

<当スライドは配付資料です>